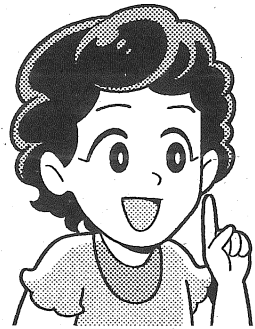


ほけんニュース

9月9日は救急の日

子どものけがを防ぎましょう

乳幼児期は、転んだり、どこかをぶついたり、いろいろなけがをしやすい時期です。子どものけがを防ぐためには、けがにつながりそうな原因を取り除き、子どもに予防対策を伝えることが大切です。また、けがをしてしまった時には、応急手当などの対処をお願いします。



けがをしないために約束事を決めておきます

安全のために、危険なことやしてはいけないことを伝えて、子どもとの間でルールを決めるようにします。



<p>はさみでけがをしないために</p>	<p>くちのなかのけがをしないために</p>	<p>ころんでけがをしないために</p>
<p>ひとにわたすときはとじたはをもつよ</p> <p>おとなのひとのいるところをつかうよ</p>	<p>はをみがくときははブラシをくちにいれてあるいたりはしったりしないよ</p> <p>フークやはしをくちにいれてあるいたりはしったりしないよ</p>	<p>くつのかかとはふまないよ</p> <p>くつのベルトはきちんととめるよ</p> <p>くつがきつくなったらおうちのひとにいうよ</p>

子どもがしやすい けがの応急手当

切り傷・すり傷

水道水で傷口の汚れをしっかりと洗います。清潔なガーゼを当てて圧迫して止血します。その後、ばんそうこうや包帯などで固定しましょう。

こんな時は病院へ

大きい傷や深い傷がある。手や指が腫れて、痛みが強い。傷口に異物が残っている。

打撲

頭の出血は傷口をガーゼで圧迫して安静に。手足の打撲はタオルで冷やします。

こんな時は病院へ

頭：たんこぶがある。意識を失って意識が戻った。嘔吐する。強い頭痛がある。

直ちに救急車を呼ぶ

頭：意識がおかしい。目の周りや耳の後ろにあざがある。けいれんしている。
胸やおなか：強く痛み顔色が悪い。肩で息をして苦しそう。呼吸が速い。
手足：変形してその場所より先の色が悪く、触られた感触がない。

やけど

やけどをしたら、すぐに流水で20分間は冷やしてください。服の上から熱湯などを浴びた場合は、着衣のまま流水で冷やします。

こんな時は病院へ

面積が広い時：冷水で20分間冷やし、すぐに受診。
顔や頭・指の関節：範囲が小さくても受診。

※医療機関が遠い場合は救急車を利用してください。

発熱・頭をぶつけた・嘔吐などで心配な時には

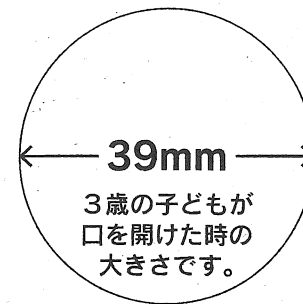
小児救急電話

#8000

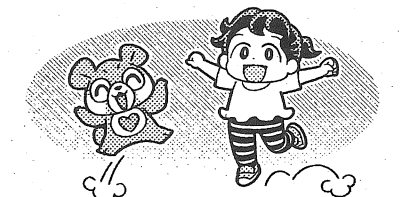
休日・夜間の急な子どもの症状にどう対処したらよいか、判断に迷う時に、短縮電話番号#8000に電話すると、小児科医師・看護師から症状に応じた適切な対処の仕方や受診する病院等のアドバイスを受けられます。

家の中での誤飲に注意!

直径39mmの円を通過するものは、子どもが誤飲してしまいます。ボタン電池の誤飲は食道や胃をただれさせ、重症事故につながります。複数の強力なネオジム磁石は、腸壁を挟んで穴を開けたり腸閉塞を引き起こしたりします。樹脂製の吸水ボールも腸閉塞の危険があります。また、たばこやお酒の誤飲もひどい中毒症状を起こすことがあります。これらの物は、子ども手の届かない、見えないところに保管しましょう。



遊びながらけがをしにくい体に



かけっこやスキップ、ボール投げなどの遊びをすると、体の軸や運動能力が鍛えられ、転びにくくなります。楽しく遊びながら、けがをしにくい体を作りましょう。